



サヨウラ勝ちで8強入りを決め、笑顔で三塁側アルプススタンドへ向けて駆け出す八学光星ナイン。16日、甲子園

# 「次もみんなで勝つ」

## 選手をサポート ベンチ外3年生 歓喜

### 光星8強入り



試合終了後、スタンドへあいさつに来る八学光星ナイン。手を上げて応える硬式野球部の控え選手

16日に甲子園球場で行われた全国高校野球選手権3回戦で、八学光星が劇的なサヨウラ勝ちを収め、5年ぶりの8強入りを決めた。勝利の瞬間、これまでベンチ入り選手を献身的にサポートし続けてきた控え部員も、三塁側アルプススタンドで喜びを爆発させた。特に3年生は最後の夏に大舞台に立てない悔しさを抱えながらも、「次もみんなで勝つ」と仲間の健闘をたたえた。

（金澤千優希）

昨秋の福井大会、春のセパ戦にもベンチ入りした小日山里さんは、夏直前に調子を落とし、サポート側に戻った。チームが勝利するたびに「うれし」と思いながらも、自分が出ら

合映像を自分なりに研究し、打球フォームを物まね。打撃の調子が上がり切らないメンバには、調子を取り戻してほしいと、あえて甘いボールを投げて選手を送り出した。

同じく夏のベンチ入りを逃した畑垣聖さんは、大の仲良しだという山岡大選手と、お互いの名前が入ったフェースタオルを交換。

「試合のたびに目のタオルをも背負ってフレッシュしている」とひきまわ力強く応援した。

3回戦は下山選手がサヨウラ打で勝利。選手たちが三塁側スタンドへ駆け寄ると「最高」と満開の笑顔。今大会の8強入りで、9月の国民体育大会で実施される硬式野球への出場が濃厚となり「また試合に出られるかもしれない。チャンスを開けたことに感謝したい」と声を弾ませた。

快進撃を続けるチームを戦略面で支えたのが、相手チームのデータを取る「解折班」の選手たち。首脳陣に「データを取らせたら県下」と言わしめた立野素輝さんらは、県大会の段階から、ライバル校の試合映像を見て、相手投手陣の配球をデータ化してきた。

次戦は、昨夏の初戦でぶつかり、延長の末に頼り切った明石商（兵庫）。平野さんは「相手の打撃はよく打つと思うが、自分たちが打ち勝てるようしっかり分析したい」と意気込んでい